

## 学術情報発信のための協力者会議（第1回）議事要旨

日時：平成15年10月28日（火） 13:00-15:00

場所：附属図書館会議室

出席者；

草刈館長、土屋教授、竹内助教授、伏見教授、瀧口教授、正木教授、森下教授、池上助教授、長岡研究協力課長、五十嵐事務部長、京藤情報管理課長、尾城情報サービス課長、加藤雑誌・電子情報係長、阿蘇品雑誌・電子情報係員

### 資料

- 1 協力者会議名簿
- 2 運用に向けた検討課題一覧
- 3 学術情報リポジトリ管理システム登録マニュアル（試行入力版）  
参考資料 千葉大学学術情報リポジトリ計画（館内試行版）のページ

### 概要

議事に先立ち、草刈館長からの趣旨説明及び委員・事務局の自己紹介を行った。

#### 1. 運用に向けた検討課題について

尾城課長から、資料2に従い説明があり、以下のような質疑・意見が出された。今後、これらを踏まえ、運用ガイドライン、初期データ整備、システム改善の3点を優先課題として、原案作成や調査等の具体的作業を進めるものとする。

##### 【初期データ整備について】

- ・初期データ整備とガイドラインの作成は同時進行で行うのか。  
そのように想定している。これらの初期データは、ガイドライン上、登録に問題ないデータであると認識している。

##### 【ガイドラインについて】

- ・リポジトリでは、千葉大以外の研究者の学術情報を登録することは有り得るか。看護学部のCOEプロジェクトでは、他大学の看護学の情報も収集し、DB化を想定している。  
システム面、政策的な面でのリポジトリとの連携可能性について、今後、看護学部と図書館とで積極的に検討を進めるものとする。
- ・情報発信と同時に、情報の蓄積（アーカイブ）の視点も必要ではないか。例えば、退官した教官の業績も維持し続ける等。
- ・登録対象のコンテンツには、大学としての成果と個人としての業績、という2面があ

る。

- ・「審議のまとめ」( 学術情報の流通基盤の充実について ) で示される大学の情報発信機能を意識しておく必要がある。
- ・例えば、講義に用いる教材は、「固定された」論文と異なり、常に更新されてゆくものであり、過去のデータをリポジトリに蓄積し、発信してもあまり意味がないと思われる。

#### 【利用許諾・著作権について】

- ・個々の論文単位で行うべきか、研究者単位で行うべきか。  
前者では煩雑。一度の許諾で済むなら後者が望ましい。
- ・「許諾書に同意する/しない」の選択画面を、コンテンツ登録時に必ず通るようにシステムに作り込むのはどうか。  
システム改造要件として検討する。
- ・コンテンツ登録という行為をもって、公開・公衆送信を許諾した、とみなせないか。
- ・紀要論文の著作権の所在は各学部（紀要編集委員会）でどのようになっているか。  
投稿規程あるいは個々の著作者を対象に、著作権の所在を明文化しているケースとしていないケースがある。看護学部の場合、投稿規程に盛り込み、今後の掲載論文の電子化・公開は編集主体が行うことが可能となった。過去の論文については、個々の著者に対して書面で利用許諾依頼を行った。

## 2 . コンテンツ登録手順について

阿蘇品係員から、資料3に従い、データ登録のデモンストレーションを行い、次のような質疑・意見があった。

さらに今後のシステム利用評価を踏まえたうえで、インタフェースの改善点をまとめ、システム改善仕様書に盛り込むものとする。

- ・DC ( ダブリンコア ) 準拠の詳細なメタデータを1件ずつオンライン登録するインタフェースでは、研究者からのデータ登録は進まない。簡略化が望まれる。
- ・タイトル、著者名等の簡便な項目のリストを、例えばMS/Excel等で作り、それをバッチ的に登録可能にする等の方法があると登録が進むのではないか。
- ・登録コンテンツそのものがHTML、XML等の構造化テキストであれば、メタタグから自動的にメタデータを抽出するような仕組みが望まれる。

## 3 . その他

次回委員会は、12月中旬に開催する。

以 上